

職員による自己評価

A環境面

現在の利用者数や活動内容に充足したスペースが確保できている。

室内の活動スペースには段差や死角がない。

事業所のある2階へは階段だけである。

B児童への支援内容

利用者のニーズや課題を分析し、特性に配慮した活動をしている。

C関係機関との連携

必要時には連携し情報共有などができる。

D保護者への説明責任・信頼関係

子どもの様子や活動内容を送迎時や連絡帳・メールで保護者に伝えたりし、お互いの情報交換ができている。

E非常対応

対応マニュアルの確認や全員避難訓練は実施できている。保護者への周知が不十分なところがある。

保護者による評価

A環境面

活動スペースは十分である。

2階の事業所まではスロープやエレベーターが設置されていない。

B児童への支援内容

活動内容はおおむね満足している。

地域や他の児童クラブ等との交流機会はない。

C事業所からの情報発信

保護者会への開催はない。

保護者同士の連携が難しい。

ホームページやお便りなどによる積極的な発信が不十分である。

D非常対応

防災訓練の実施は知っている。

事業所内での分析

【共通点】

○支援内容や活動内容に関しては評価が高い。固定化しないようにこれからも工夫が必要である。

○連絡帳などにより日頃の情報交換はできているが、ホームページやお便りなどによる発信は十分ではない。

○災害や緊急時・防犯などの安全面について訓練は実施しているが、保護者への周知が不十分なところがある。

【相違点】

分析・検討してみても…

事業所の強み

- 児童・保護者のニーズに合わせて柔軟に支援することができる。
- 子どもの日々の様子を連絡帳や電話・メールにて保護者との情報交換ができています。

事業所の改善点

- 学校や他の児童クラブ等との情報交換や交流の機会
- 災害・緊急時・防犯の周知の見直し
- 活動プログラム
- 活動内容や様子などの発信
- 個人情報の扱い

事業所の改善への取り組み

- 学校・関係機関との情報交換や連携の機会を増やす。
- 災害・緊急時・防犯等の安全を見直すとともに具体的な対応策や定期的な訓練の実施、周知を徹底する。
- 職員の専門性や支援力の向上のために勉強会を定期的に開く。
- 活動内容を吟味し十分な準備と工夫をする。
- 活動の様子などの発信する回数を増やす。
- 個人情報の扱い方には十分に注意をする。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

洗い出された改善点により、現状を知ることができた。
問題に合わせて改善策を考え実行していきたい。

事業所名 プレップサポートセンター和田町

担当者 細谷由夏